



いつも 現役部員と共に

ソフトテニス部OB会 命友クラブ

Meiyu Club

立

命館大学体育会ソフトテニス部は、一九一九年に軟式庭球部として創設されて以来、今年で八六年という長い歴史を有します。私たち命友クラブも、現役部員の支援を続けながら彼らと一緒に歩み、毎年二月に総会と四回生の送別会・祝勝会を開いています。

近年盛大だったのは、昨年の創部八五周年記念式典でした。この年、男子は西日本大学対抗選手権大会優勝、関西一部リーグ戦春秋連覇、全日本大学選抜王座決定戦準優勝と目覚ましい戦績を上げ、女子も東西六大学王座決定戦で優勝、節目の年にふさわしい活躍ぶりでした。

多くの来賓や命友クラブメンバーから現役生へ、「日本一を越えて、大きく世界を目指してほしい」という激励のエールや拍手喝采が送られ、卒業する四回生が答辞を述べました。校歌・応援歌に湧き、新たな闘志が生まれました。また、命友クラブ関東支部・東海命友会からも参加があり、大いに心強いものでした。特に関東支部は、組織強化の取り組みを立命館スポーツエロージャーナルから表彰されるなど意気盛んな団体です。

ソフトテニス部男子は第四期黄金時代への布石を、女子は第一期黄金時代を求めて、創部一〇〇周年に向かって更なる発展を目指しています。私たち命友クラブも、水田雅博監督（76歳）を支えながら頑張っています。皆様のご声援をよろしくお願い申し上げます。

命友クラブ会長 川崎哲郎（58歳）記



タイムカプセルの 鍵はみんなの胸に

立心会'67卒業同期会

Risshinkai

わ

たしたちは今から三八年前に文学部心理専攻を卒業しました。学生時代には河原町通りに市電が走り、京都駅からの草津線にはまだ煙を吐いて蒸気機関車が走っていました。コピー機もなく、卒業論文などを手元に残そうと思えば筆写しか方法がありませんでした。電話も十分に普及しておらず、卒論の指導のために担当教授から電報で呼び出されるというようだった時代です。

わたしたちは卒業以来四年に一度京都でクラス会をしています。昨年には二条の全日空ホテルで会を催し、明るく日は嵯峨野で遊びました。還暦を迎えたか、まもなく迎えるという時期でもあり、学生時代の思い出に交じって人生を省察する声もひそひそと聞こえておりました。わたしたちクラス会のメンバーはそれぞれにタイムカプセルの鍵を持っています。それはお互いの胸にあり、みんなが集まって眼と眼が合うとカプセルが開くのです。今回は参加者も多く、たくさんの方の鍵でカプセルを開けたので楽しい話題は溢れんばかりでした。



時の鍵は、ちよつと油断すれば
きみの大切な過去を削りにくる
人生は油断の連続で
大切な過去は日々細り続ける
だからタイムカプセルを開けて
ときどき過去を補充しなければならぬ
抜き取った分は
みんなの少しずつの「今」を詰めておこう
明日になれば熟成した過去になるのだから

森 哲弥（67文）記

* 森氏は、詩集『幻想思考理科室』で01年度日本文学賞の詩人